

【令和7年度】 各市町村等の 防災・減災に関する取組紹介

※令和7年度第1回各水防災連絡協議会資料より

目次

	分類	取組内容	概要	取組機関	協議会	ページ
1	被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	職員参集システム（リスクロ）の導入	地震時の職員参集を促すツールとして導入 風水害時にも災害報告を上げることができる	豊中市	豊能地域 西大阪地域	1
2	被害対象を減少させるための対策	個別避難計画作成促進	避難行動要支援者に係る取組内容 個別避難計画を促進するための検討会議開催	池田市	豊能地域	2
3	氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	下水道整備による浸水対策	浸水対策の一環として、下水道事業計画（10取組内容 年確率）に基づき雨水整備を実施している	池田市	豊能地域	3
4	被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	防災土養成講座の開催	令和6年度箕面市防災土養成講座を開催	箕面市	豊能地域	4
5	被害対象を減少させるための対策	指定避難所受付・開設訓練を実施	避難所受付・開設・応急救護に関する訓練及び気象庁講話を実施	豊能町	豊能地域	6
6	被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	コミュニティタイムライン作成の推進	自治会長に対するコミュニティタイムライン作成要領の説明	豊能町	豊能地域	7
7	被害対象を減少させるための対策	地域防災力の強化	地域防災力の強化のための取組を実施	能勢町	豊能地域	8
8	氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	淀川広域避難タイムラインについて	淀川広域避難に関する市民周知や訓練の実施	高槻市	三島地域	9
9	被害対象を減少させるための対策	水害・土砂災害ハザードマップの更新	水害・土砂災害ハザードマップの水害・土砂災害リスク等を最新の情報に更新	茨木市	三島地域	10
10	被害対象を減少させるための対策	ハザードマップを活用した防災教育の実施	小学4年生を対象に、水害・土砂災害ハザードマップを活用した防災教育を実施	茨木市	三島地域	11
11	被害対象を減少させるための対策	令和6年度に実施した防災・減災に関する主な取組	①洪水・内水ハザードマップを兼ねた啓発冊子（水害対応ガイドブック）を作成し、全戸へ配布 ②1つの小学校区をモデルとし、広域避難について考えるワークショップ等を開催し地域版防災マップ及び啓発動画を作成	摂津市	三島地域	12
12	被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	防災とボランティア訓練	マンホールトイレ、段ボールベット、メッシュテントの組立体験、展示	島本町	三島地域	13

目次

	分類	取組内容	概要	取組機関	協議会	ページ
13	被害対象を減少させるための対策	3Dハザードマップ「リアルハザードビューア」の導入	従来の2次元の地図情報によるハザードマップでは、実際の水害時の状況をイメージすることや、自宅等での「垂直避難」を検討するための情報が少なく、水害対策に係る地域住民の主体的な避難行動の検討や防災教育等での活用が難しいことから、3Dデジタルマップを活用したリアルな水害体験の啓発が可能である防災啓発ブラウザサービス「リアルハザードビューア」を令和6年8月より導入し、運用を開始。	吹田市	三島地域 西大阪地域	14
14	被害対象を減少させるための対策	守口市自主防災訓練の実施	守口市自主防災訓練の実施	守口市	北河内地域	15
15	被害対象を減少させるための対策	地区防災計画の策定事例紹介	地区防災計画の策定と連携したマイ防災マップ及びコミュニティタイムラインの策定	枚方市	北河内地域	16
16	被害対象を減少させるための対策	地区防災計画の策定事例紹介	総合防災訓練（ひこ防'z）概要	枚方市	北河内地域	21
17	被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	デジタル技術を活用した市民の安全・安心の向上	寝屋川市河川監視カメラシステムの構築	寝屋川市	北河内地域	33
18	被害対象を減少させるための対策	地区防災計画作成に伴うコミュニティライン等の作成	街歩きを行いコミュニティハザードマップの作成 風水害におけるコミュニティタイムラインの作成	大東市	北河内地域	34
19	被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	門真小学校でのARを活用した防災教育	門真小学校の4年生を対象に、ARアプリを活用した防災授業を実施	門真市	北河内地域	35
20	被害対象を減少させるための対策	四條畷市総合防災訓練	住民主体の避難所の開設等の連携イメージの共有	四條畷市	北河内地域	38
21	被害対象を減少させるための対策	災害対応車両の導入について	防災力強化事業の一環として、トイレトラック1台、トイレカー2台を購入	交野市	北河内地域	39
22	被害対象を減少させるための対策	津田円通谷地区治山ダム（6・復旧）工事	・治山事業、森林整備・保全を推進	中部農と緑 の総合事務所	北河内地域	40
23	被害対象を減少させるための対策	南野地区整理伐 6・流域治水）業務	・森林整備・保全を推進	中部農と緑 の総合事務所	北河内地域	41

目次

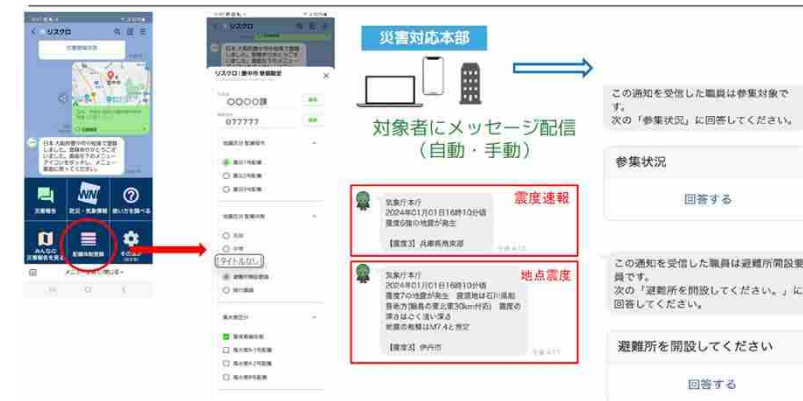
	分類	取組内容	概要	取組機関	協議会	ページ
24	被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	土砂災害を想定した防災行動計画作成	生駒山麓地域の土砂災害を想定した市役所内タイムラインを作成	東大阪市	中河内地域	42
25	被害対象を減少させるための対策	八尾市大規模水害タイムラインによる動きの明確化	大規模水害タイムラインの行動項目を盛り込んだ各班マニュアルの作成	八尾市	中河内地域	43
26	被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	地域防災力向上を目的とした自主防災訓練の実施	避難所運営に関する演習、個別避難計画策定を見据えた要配慮者の避難訓練 キッチンカーによる食事配給訓練	柏原市	中河内地域	44
27	被害対象を減少させるための対策	大防災訓練 ・ こども防災放送	大防災訓練 ・ こども防災放送	泉大津市	泉北地域	45
28	被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	地域避難計画および地域タイムランの作成	R5年度より4カ年の計画で市内全中学校区にて地域避難計画および地域タイムラインを作成	和泉市	泉北地域	52
29	被害対象を減少させるための対策	コミュニティタイムライン作成に向けたサポートと個別避難計画の作成	コミュニティタイムライン作成に向けたサポートと個別避難計画の作成	高石市	泉北地域	53
30	被害対象を減少させるための対策	風水害タイムライン訓練・自主防災組織による防災講座の実施について	風水害タイムライン訓練・忠岡町総合防災マップの説明 (災害リスク、避難情報、避難行動やマイタイムラインなど)	忠岡町	泉北地域	54
31	被害対象を減少させるための対策	岬町タイムライン防災の取り組みについて	岬町タイムライン防災プロジェクト	岬町	泉北地域	55

取組内容 地震時の職員参集を促すツールとして導入。風水害時にも災害報告を上げることができる。

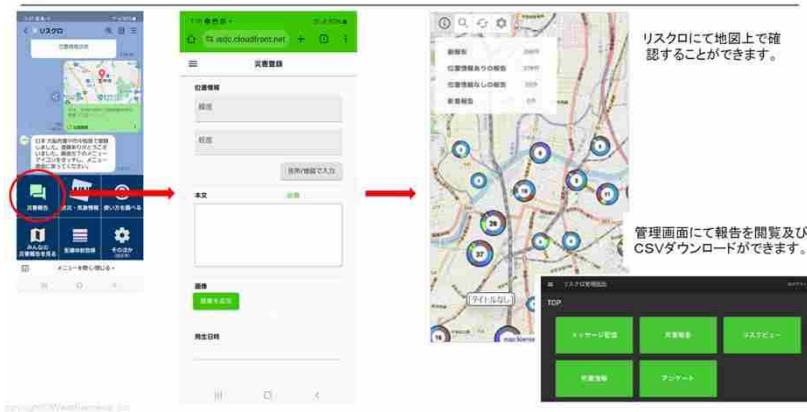
情報登録・職員参集機能



情報登録・職員参集機能



災害情報の登録



ラインを活用して、災害時の職員参集や災害報告を行うもの。
風水害時にも、災害報告を上げることができるので、市内の状況がすぐにわかる。

取組内容 避難行動要支援者に係る個別避難計画を促進するための検討会議開催

令和5年度

- 池田市において、個別避難計画は危機管理課が主管になっているが、更に他部局と連携し作成を進めていくため、「避難行動要支援者に係る個別避難計画を促進するための検討会」を開催するため準備開始。
- 会議設置要綱の検討

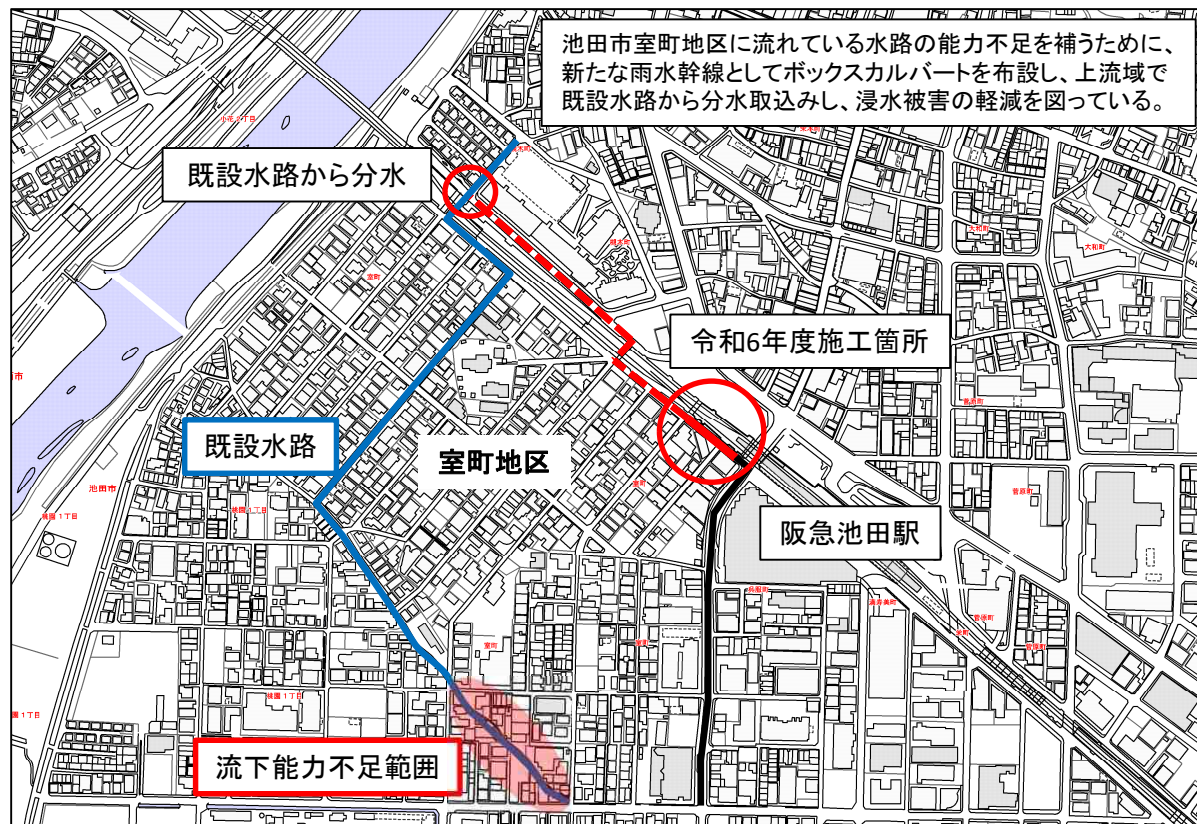
令和6年度

- 避難行動要支援者に係る個別避難計画を促進するための検討会開催
 - 他市モデル事業・内閣府資料を検討会で紹介
 - 検討会開催し、個別避難計画優先作成対象者の要件を検討
 - 個別避難計画優先作成対象者抽出開始

令和7年度

- 検討会開催により、他部局と連携し抽出された優先作成対象者の個別避難計画作成に向けて検討

取組内容 浸水対策の一環として、下水道事業計画（10年確率）に基づき雨水整備を実施している



令和6年度施工写真



取組内容 令和6年度箕面市防災士養成講座を開催

◆開催の経緯

箕面市では令和元年度より、隔年で防災士養成講座を開催しています。箕面市の防災士養成講座は、市職員の室長級・各対策部員・地区防災スタッフ、地域住民からは地区防災委員会の役員を対象に開催しています。

◆現在の箕面市内の防災士の人数

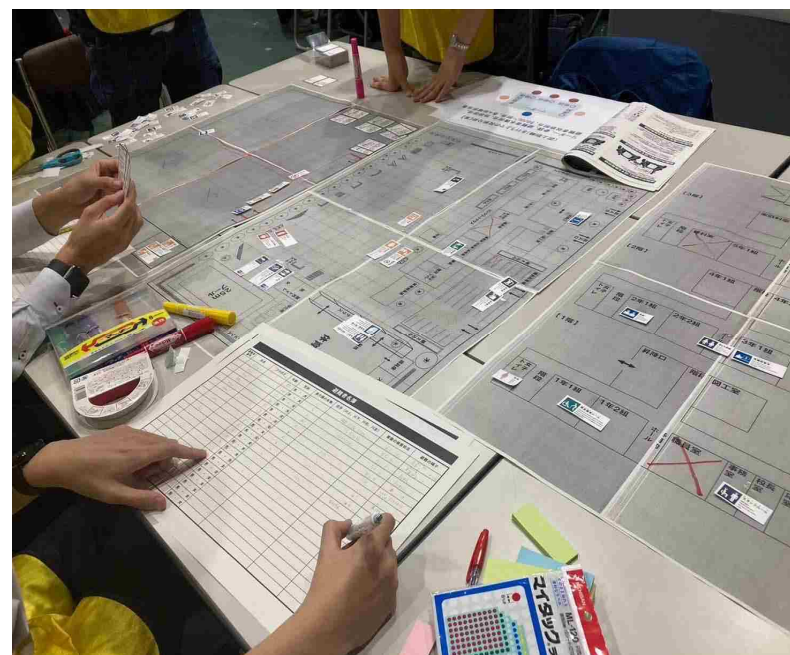
令和6年度は61名が新たに防災士の資格を取得しました。現在、箕面市の防災士養成講座により353人の方が防災士の資格を取得し、箕面市の防災業務に従事しています。



取組内容 令和6年度箕面市防災士養成講座を開催

◆授業内容

箕面市の危機管理職員・消防職員や、外部の防災関係機関の職員様や大学教授にも講師を依頼し、計2日間で9項目の講義を開催しました。座学だけではなく、シミュレーション型訓練の「避難所運営ゲーム(HUG訓練)」を実施しました。HUG訓練とは、避難所の体育館や教室に見立てた平面図にどれだけ適切に配置できるのか、また避難所で起こる様々な出来事にどう対応していくかを疑似体験するゲームです。市職員・地域の方々とグループを作り、HUG訓練を通じて避難所運営の難しさを体験しました。



取組内容 避難所受付・開設・応急救護に関する訓練及び気象庁講話を実施

今年度は、避難所受付・運営に関する訓練及び座学等を光風台小学校において実施しました。

指定避難所は、町域に南海トラフ等の大規模な地震が発生し、多くの避難者が予想される場合に開設しますが、その円滑な運営には、町職員だけでなく、自主防災組織等の地域の方々の多大なご協力が必要不可欠になります。そこで、今回の訓練のように地域住民の方々と町職員が協働して実施しました。

○日 時

令和6年11月24日

○場 所

豊能町光風台小学校

○実施内容

- ・ 避難所受付・運営
- ・ 応急救護（箕面消防豊能署）
- ・ 防災に役立つ気象情報（大阪管区気象台）
- ・ 災害時の炊き出し（自衛隊）

○参加者約50名



取組内容 自治会長に対するコミュニティタイムライン作成要領の説明

自治会長（14名）に対してコミュニティタイムラインとは等で重要性を解説したのち、コミュニティタイムラインの作成要領の説明を実施しました

○日 時

令和7年2月28日

○場 所

豊能町役場2階会議室

○協力・支援（2名）

大阪府池田土木事務所地域支援・防災グループ

コミュニティタイムラインの作成について

令和7年2月28日

大阪府池田土木事務所
地域支援・防災グループ

1

■コミュニティタイムラインとは

- ・小学校区や自治会などの区域を対象とし
住民や自主防災組織などの防災行動を記載したもの

- ・ **市町村** と **地域や住民** が一緒に作成する

コミュニティ（地域の）タイムラインのイメージ

いつ	情報	誰が	
		個人	地域（自治会）
台風最接近の 2～3日前	気象情報	事前にハザードマップを確認 非常持出袋の確認	地域連絡網の準備 安否確認方法の確認
台風最接近の 1日前	気象情報	鉄道、バスなどの運行情報確認 非常持出袋を玄関に準備	要配慮者へ声掛け
台風最接近の 数時間前	避難勧告 避難指示（緊急）	指定緊急避難場所へ避難開始	指定緊急避難場所へ避難開始 要配慮者の見回り・支援の開始
台風最接近		避難が完了	地域全員の無事を確認

取組内容 地域防災力の強化のための取組を実施

本町は約100km²の町域に44の自治区が点在しており、災害時の備えとして地域の防災力を強化することが大変重要となることから、昨年度に引き続き、本年度においても自主防災組織の充実・拡大を目的として防災研修会を開催した。

【取組内容等】

- 参加地区数 14地区（18人）
- 内 容
 - （1）講演会「地震に備えて」（講師：豊能町危機管理専門官）



（2）災害対応実技指導（講師：豊中市北消防署能勢町分署）

①防災資機材の使い方



②毛布担架の作成・搬送方法



③ジャッキを使った救助方法



取組内容

水害・土砂災害ハザードマップの水害・土砂災害リスク等を最新の情報に更新

●経緯

安威川ダムの供用開始に伴い、大阪府により洪水浸水想定区域図が更新されたことを踏まえ、水害・土砂災害ハザードマップを更新し、市民への配布等を行い、最新の水害・土砂災害リスク等について周知を行った。

●内容

時期	実施内容
5月～10月	水害・土砂災害ハザードマップの更新作業 【主な更新内容】 ① 安威川の氾濫による浸水リスクの更新 ② 土砂災害警戒区域の更新 ③ 避難情報発令対象地域の見直し ④ 市ホームページ掲載用のデータの作成 …電子書籍データ、小学校区版データ、外国語版データ
11月	更新した水害・土砂災害ハザードマップの配布及び広報 …当課窓口及び市内5図書館で配布※全戸配布なし
11月～2月	最新の水害リスクに基づく想定避難者数の算定



●効果

- ・ハザードマップ更新後、窓口等での配布数やホームページへのアクセス数が増加した。
- ・電子書籍を導入したことにより、ホームページ上でのハザードマップへのアクセシビリティが向上した。

取組内容 小学4年生を対象に、水害・土砂災害ハザードマップを活用した防災教育を実施

経緯

地域防災の主体を担う人材を育成するため、令和4年度は1校、令和5年度は4校のモデル校で実施したハザードマップを活用した防災教育を、全小学校で実施した。

内容

時期	実施内容
6月	全小学校に「ハザードマップを活用した防災教育の手引書」を配付
7月	手引書をもとにハザードマップの活用方法などに関する研修会を全小学校の4年生担当教員向けにオンラインで実施
8月	全小学校に4年生の人数分のハザードマップを配付
9月～11月	各小学校の4年生の社会科授業でハザードマップを活用した授業を実施
11月～12月	全小学校の4年生担任を対象にアンケートを実施・集計

効果

実施後のアンケートでは、多くの小学校が学習効果を感じていると回答。ハザードマップを見て自分の住んでいる地域の危険な場所を知ったことで、防災を身近に感じ、日頃の備えを意識するようになった児童が増えたと考えられる。



1. 学校周辺や地域の特性を知る
小学校の標高は約16.7mと少し高い場所にあり、外水氾濫による学校の浸水想定はない。校区内を見ると、広範囲で外水氾濫、内水氾濫のリスクがあるが、想定浸水深は深くない。外水氾濫では、商業のエリア（JR沿線側）で想定浸水深が一部3.0m以上、0m未満と深い場所があるが、府道16号線より西側は浸水リスクがない。

2. 避難情報の安全対策地域を知る

災害	安全区分	小学校区内の対策町丁目
河川	安威川上流	—
河川	安威川下流	春日一丁目、五丁目
河川	茨木川	春日一丁目、五丁目
河川	大正川	—
河川	深川	—
河川	女瀬川	—
土砂災害	国道171号以北	—
土砂災害	国道171号以南	—

3. 安全な場所・避難場所を知る

避難場所名	地震	台風	安威川上流	安威川下流	茨木川	大正川	深川	女瀬川	土砂災害（以北、以南）
春日小学校	○	○	※	—	—	—	—	—	—
西中学校	○	—	—	—	—	—	—	—	—
春日コミュニティセンター	○	—	—	—	—	—	—	—	—
春日北高等学校	○	—	—	—	—	—	—	—	—
茨木工科高等学校	○	—	—	—	—	—	—	—	—

※：大規模な水害の発生が予想される場合に、状況に応じて開設される避難場所を示します。

安威川等 浸水継続時間

鳥飼東小学校区で
広域避難を広めていく方法を
話し合いました。

取組内容 マンホールトイレ、段ボールベット、メッシュテントの組立体験、展示



令和7年1月19日に町立中学校で開催した防災とボランティア訓練において、防災指導員や災害時にトイレの提供を担当する環境課職員が参加し、マンホールトイレ、段ボールベット、メッシュテントの組立体験、展示を行い、マンホールトイレのしくみなどを住民にパネル展示と併せて説明した。



取組内容

従来の2次元の地図情報によるハザードマップでは、実際の水害時の状況をイメージすることや、自宅等での「垂直避難」を検討するための情報が少なく、水害対策に係る地域住民の主体的な避難行動の検討や防災教育等での活用が難しいことから、3Dデジタルマップを活用したリアルな水害体験の啓発が可能である防災啓発ブラウザサービス「リアルハザードビューア」を令和6年8月より導入し、運用を開始。

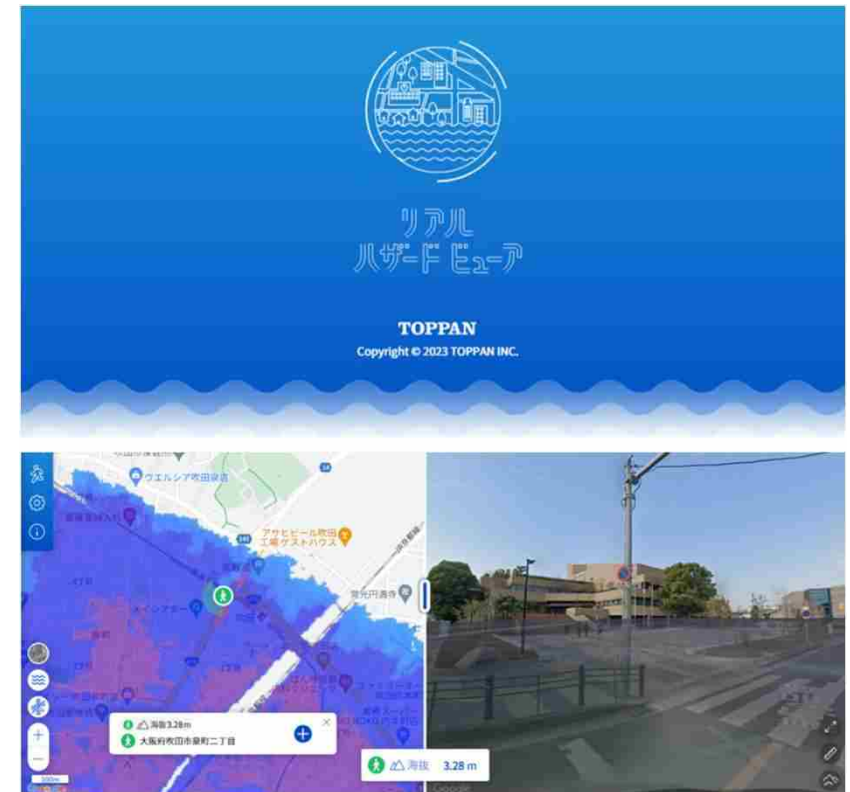
リアルハザードビューアの概要

◆機能◆

- ・GoogleMapとGoogleStreetView等を用いた3Dマップ上に洪水浸水想定区域図（L2）の浸水深を可視化
⇒ GoogleStreetViewと同様のインターフェース・操作感覚でリアルな浸水深を閲覧可能
- ・マップ上に登録された避難所情報を基に、ユーザーが自由に避難ルート等を設定して避難動線を確認可能
- ・ユーザー登録した場合、危険箇所や防災情報を地図上にタグ付けすることが可能となり、各自・各家庭の防災ツールとして活用可能
- ・専用アプリ等が不要なブラウザサービスのため、誰でもPCやスマホからアクセスすることが可能

◆参考経費◆

- ・システム利用料（月額） 264,000円(税込)
- ※別途、初期構築費が必要（約600万円）



活用状況

様々な機会を捉えて周知・啓発を実施

▶R6年度利用者数（8月～）

のべ **約2,800人**

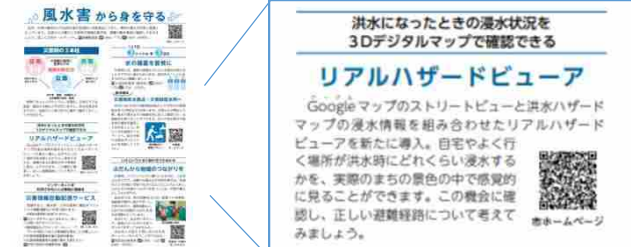
+防災訓練・講座等で**約500人**が操作を体験

◆防災訓練・防災講座での操作体験◆



▶地域防災総合訓練に体験ブースを設置（その他、地域の防災訓練等にも複数回出展）▶風水害対策の啓発に合わせて機能を紹介

◆市報等での周知啓発◆



日時	令和6年10月27日(日)、11月10日(日)
場所	守口市立八雲中学校、守口市立八雲東小学校 運動場
内容	避難誘導訓練、消火訓練、救急訓練、炊き出し訓練、マンホールトイレ設置訓練、その他
目的	地域住民が災害に備え、災害発生時に迅速かつ適切に対応できる能力を高めること



取組内容 地区防災計画の策定と連携したマイ防災マップ及びコミュニティタイムラインの策定

取 組 概 要

浸水リスクのある伊加賀校区（小学校）から、浸水しない枚方小学校に向けて事前に避難ルール（対象地域や避難開始のタイミング等）を定めた地区防災計画の策定に併せ、マイ防災マップやコミュニティタイムライン、避難訓練の実施を行った。

策定のステップ	内 容
令和5年12月21日 意見交換会	伊加賀校区内の浸水地域を対象に、浸水しない枚方小学校へ向けた避難について、伊加賀・枚方校区で認識の共有と計画策定に向けた意見交換を実施。
令和6年1月11日	伊加賀・枚方校区広域避難版地区防災計画策定。
令和6年10月21日 避難ルートの下見	計画に基づく避難訓練を枚方ひこ防‘z（枚方市総合防災訓練）で実施するため、具体的な避難ルートについて校区自主防災会役員、淀川河川事務所、枚方市で下見を実施。



策定のステップ

内 容

令和6年11月4日

淀川河川事務所より避難所までの危険箇所を反映した避難ルート「防災マップ」についての説明及び住民によるまち歩きを実施し、危険箇所の把握を行った。

ワークショップ及びまち歩き



令和6年11月15日

まち歩きにより完成した防災マップについて、校区自主防災会役員で確認を行う。
浸水目安や避難方向など、微修正を行った。

防災マップの提示



※完成した防災マップ。

策定のステップ	内 容
令和6年11月24日 枚方ひこ防'z	防災マップに基づき、校区内3か所の出発地点より避難訓練を実施。小型無線機を使用し、随時避難状況を枚方校区へ伝達するなど、両校区で広域避難及び受入訓練を実施。 枚方小学校到着後は、両校区及び施設管理者との顔合わせや、避難スペースとなる体育館の確認を行った。 
令和6年12月7日 【コミュニティタイムラインの作成】 防災マップの提示	伊加賀校区及び枚方校区で、訓練の振り返りを行うとともに、どのような気象状況の時にどのような行動を地域でとるのかを定めた「コミュニティタイムライン」を大阪府支援のもと作成。 

枚方市
伊加賀校区 マイ防災マップ

水害編

令和6年11月作成



作成したコミュニティタイムライン

種類 経過	活動内容・実施状況・備考等（注１）	利用者の活動情報 留意レベル	活動項目		実施の留意点					
			活動でやる人	活動に誰がの関与人	情報収集	計画策定	実施経過	その他		
	①活動計画情報 地域活動情報（活動開始の月・期・年等の情報） ②実施状況情報（継続）									
	大町市医師、大町市薬剤師、大町市保健師、大町市助産師 大町市医師、大町市薬剤師、大町市保健師が活動に協力し合う体制について	①活動計画情報 （活動計画が決定済）	留意レベル①（注意） 大町市医師が中心で活動	・高血圧症対策実施 ・食料・生活費・生活費減額						
	健康診断 大町医師、大町薬剤師	①活動計画情報 （活動計画が決定済）	留意レベル②（注意） 活動計画が決定済 活動計画が決定済	生活習慣病対策	運動習慣 運動習慣が定着した運動習慣	コミュニティ活動委員会と 大町市医師会と連携 情報収集	運動習慣が定着した運動習慣 （大町市医師会と連携）	運動習慣が定着した運動習慣 （大町市医師会と連携）	運動習慣が定着した運動習慣 （大町市医師会と連携）	運動習慣が定着した運動習慣 （大町市医師会と連携）
	大町市医師、大町市薬剤師、大町市保健師、大町市助産師	①活動計画情報 （活動計画が決定済）	留意レベル③（注意） 活動計画が決定済	生活習慣病対策	運動習慣 運動習慣が定着した運動習慣	コミュニティ活動委員会と 大町市医師会と連携 情報収集	運動習慣が定着した運動習慣 （大町市医師会と連携）	運動習慣が定着した運動習慣 （大町市医師会と連携）	運動習慣が定着した運動習慣 （大町市医師会と連携）	運動習慣が定着した運動習慣 （大町市医師会と連携）
	大町市医師、大町市薬剤師、大町市保健師、大町市助産師	①活動計画情報 （活動計画が決定済）	留意レベル④（注意） 活動計画が決定済	生活習慣病対策	運動習慣 運動習慣が定着した運動習慣	コミュニティ活動委員会と 大町市医師会と連携 情報収集	運動習慣が定着した運動習慣 （大町市医師会と連携）	運動習慣が定着した運動習慣 （大町市医師会と連携）	運動習慣が定着した運動習慣 （大町市医師会と連携）	運動習慣が定着した運動習慣 （大町市医師会と連携）

総合防災訓練(ひこ防‘z)概要

日 時	令和6年11月12日(火)	1. 防災研修 9時30分～12時
	令和6年11月24日(日)	2. 防災訓練 9時～12時
		3. 防災イベント 13時～16時
場 所	1. 研修会場	枚方市役所 別館4階 第3・4委員会室
	2. 訓練会場	一次避難所(磯島・殿山第一・西牧野・船橋校区)・防災備蓄倉庫・伊加賀校区～枚方小学校までの避難経路・ラポールひらかた・総合福祉センター・生涯学習市民センター・要配慮者利用施設
	3. イベント会場	枚方市役所 第3分館大ホール前広場
内 容	1. 本部員・危機管理施策推進委員(交代要員を含む)を対象に目標管理型の災害対応のプロセスを体験する防災研修	
	2. 市内全域対象のシェイクアウト訓練や地域、災害時応援協定先、行政の3者が連携して一次避難所で行う防災訓練、市内の参加希望団体が行う防災訓練	
	3. 見る・知る・体験などの学びを通して、防災啓発を行う市民参加型の防災イベント	

1. 防 災 研 修

講 師

河田 慈人 氏（かわた やすひと）

専 門

防災教育、地域防災、防災情報、行政の災害対応

研 修 内 容

座 学(30分)

演習内容説明(20分)

演 習(100分)

【演習内訳】

①現状把握(10分)

市職員の立場で現在発生している被害状況を把握する
(資料の読み込み作業)

②将来予測(35分)

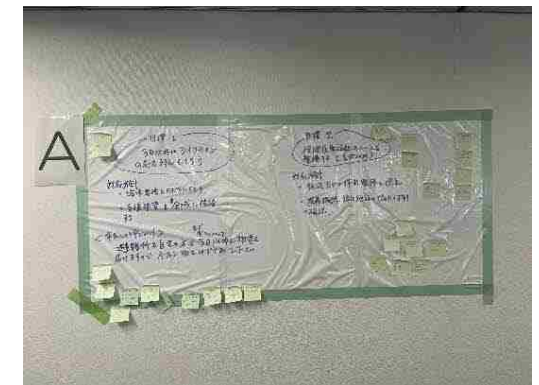
被災者の立場で今後困難が想定されることを考える

③目標設定・④対応方針
(合計35分)

市職員の立場で今後行政がとるべき目標・対応方針を決定する

⑤戦略的広報(20分)
(市長レク・模擬記者会見)

首長の立場で、被災地住民や全国に向けたメッセージを発信してもらう内容をレク(質疑応答)



2. 防災訓練

1. 市内全域を対象とした一斉行動 防災訓練(シェイクアウト訓練)

●午前9時に震度6強の地震を想定して緊急速報メール(エリアメール)を発信

この緊急速報メール(エリアメール)を合図に、「まず低く、頭を守り、動かない」身の安全を確保する行動を！



2. 広域避難訓練

●水害を想定し浸水想定区域に立地する伊加賀校区から高台にある枚方小学校への広域避難訓練を実施

3.00000JAPAN(公衆無線LAN) 回線チェック参加校区(合計20校区)

総合防災主訓練 校区一覧 (小計 5校区)

磯島区	殿山第一校区
西牧野校区	船橋校区
枚方校区	

総合防災主訓練外 校区一覧 (小計 15校区)

樟葉南校区	牧野校区
殿山第二校区	山田校区
禁野校区	サダ東校区
川越校区	サダ校区
五常校区	二中校区
香里校区	田口山校区
長尾校区	津田南校区
藤阪校区	



4. 一次避難所の開設・資機材展示および協定先などとの連携訓練

校 区	訓 練 内 容	
磯 島	●避難所開設 ●資機材展示 ●特設公衆電話の設置 ●救援物資の受入体制の確認(車両搬入路・物資受入れ場所など) ●給水活動の手順の確認(車両搬入路・給水場所の設定など)	建物安全点検の手順の確認
殿山第一		建物安全点検の手順の確認
西牧野		消防レスキュー隊による救助
船 橋		ペット預かり所の実証実験





5. 災害ボランティアセンター(ラポールひらかた)の開設・運営訓練 ならび社会福祉協議会と協定先との連携訓練

6. 生涯学習市民センターの避難訓練

- 生涯学習市民センターが、危機管理マニュアルに基づき行う避難訓練(図上訓練を含む)

6-1. 訓練参加生涯学習市民センター(合計2施設)

くずは生涯学習市民センター

生涯学習交流センター

7. 要配慮者利用施設の避難訓練

●要配慮者利用施設が、避難確保計画に基づき行う避難訓練(図上訓練を含む)

7-1. 要配慮者利用施設の避難訓練 参加施設一覧(合計32施設)

施設種別	名 称	担当課
放課後等デイサービス	フェアリー	福祉指導監査課
有料老人ホーム	ライフリゾート枚方	
認知症対応型通所介護事業所	デイサービス ウイズユー	
共同生活援助	たけとんぼ	
生活介護	わかたけ	
共同生活援助	わかば	
就労継続支援B型	わお	
(生活介護)	わお	
認知症対応型共同生活介護	たんぽぽ田口	
地域密着型通所介護事業所	アミーゴ	
有料老人ホーム	ナーシングホームアイエス	障害企画課
就労継続支援B型	クッキー工房おれんじはうす	
地域活動支援センター	クロスロード	住宅まちづくり課
サービス付き高齢者向け住宅	桃寿苑枚方	
サービス付き高齢者向け住宅	ディーフェスタくずは	
サービス付き高齢者向け住宅	めぐりカーム	
サービス付き高齢者向け住宅	MYYケアリング枚方	

施設種別	名 称	担当課
小規模多機能型居宅 介護事業所	ケアタウン枚方	福祉指導 監査課
就労継続支援B型	一般社団法人すずらん すずらんアニメーションスタジオ枚方	
老人保健施設	医療法人大寿会介護老人保健施設ユートピア	
老人保健施設	医療法人松徳会介護老人保健施設老健ふじさか	
特別養護老人ホーム	特別養護老人ホーム御殿山カーム	
通所リハビリテーション 事業所	社会医療法人美杉会介護老人保健施設美樟苑	
認知症対応型共同生活 介護事業所	社会医療法人美杉会グループホームくすのき	
老人保健施設	社会医療法人美杉会介護老人保健施設美樟苑	
特別養護老人ホーム	特別養護老人ホームいこいの里	
認知症対応型共同生活 介護事業所	ウイズユー	
デイサービス（訪問介 護）（居宅介護支援）	癒しの森	保健 医療課
病院	社会医療法人美杉会 佐藤病院	
病院	友隣会メディカルクリニック	
病院	医療法人桜花会あきせウィメンズクリニック	
病院	医療法人成育会なりもとレディースホスピタル	

8. 健康福祉部が行う福祉避難所開設訓練ならびに協定先などとの連携訓練(机上訓練を含む)

- 福祉避難所(総合福祉センター)を開設
- 事前の机上訓練にて、福祉避難所で不足する福祉用具等を確認し、協定先(日本福祉用具供給協会)へ物資の供給要請を行い、物資の受入・運搬の確認
- レンタル事業者・配送事業者(ダスキンレントオール・AZ-COM丸和運輸との情報伝達連携訓練ならびに福祉避難所(総合福祉センター)への救援物資の輸送訓練

枚方市



ダスキンレントオール+AZ-COM丸和運輸



福祉避難所

- 総合福祉センター利用者に対する防災食(おかゆ)の試食会

9. 災害対策本部事務局と各避難所間の情報伝達方法の実証実験

- 4校区の避難所派遣職員が在宅ワーク用PCを使用して、避難所に関する情報を災害情報システムに入力作業を行う

3. 防 災 イ ベ ン ト

日 時	防災イベント：令和6年11月24日(日)13時～16時
場 所	イベント会場: 枚方市役所 第3分館(旧市民会館)大ホール前広場
内 容	見る・知る・体験などの学びを通して、防災啓発を行う市民参加型の防災イベント
目 的	起震車やVR地震システム・浸水歩行などの体験型ブースをはじめ、災害対策に欠かせないライフラインに関する最新情報や非常食の展示販売などのブースを通して、市民の防災に関する意識の高揚と知識の向上を図る機会とする

出展予定団体	防災イベント出展内容(15団体 19ブース)
市 (3ブース)	防災に関する啓発・特殊詐欺など防犯に関する啓発(危機管理部)
	木造住宅耐震化模型や補強金物の展示など耐震化の啓発(住宅まちづくり課)
	土のう作成・部の取り組み(道路交通網の整備や主要駅周辺の交通環境の改善、公園の整備や緑化推進など)を示したパネルの展示(土木部)
上下水道局	給水車展示、給水活動実演等(上下水道総務課)
消防組合 (3ブース)	●防災・住警器に関する広報等※住警器ブース ●火災予防啓発(日常に潜む火災危険、燃焼実験等)※調査ブース ●ミニ消防車の展示、子供用防火服の着装体験・記念撮影 ●地震体験 ●煙体験
消防団	防災に関する展示・応急手当体験
コバシ産業	非常用持出袋や災害備蓄品等のプロモーション
たまゆら	防災グッズの展示
関西電力送配電	防災パネルの展示・防災ハンドブックの配布・感震ブレーカーパネルの実演
摂南大学	災害時の食事に関するパネル展示とレシピの配布

出展予定団体	防災イベント出展内容(15団体 19ブース)
大阪工業大学	●VR・MRデバイスを用いた防災意識向上システム体験 - MR体験・・・体験者には、テント内に設置した家具や物体などをMRデバイスを通して見てもらい、危険な箇所にある物体を安全な場所に移動してもらう - VR体験・・・認知バイアスがかかった状態でのVR地震避難体験 - VRデバイスを装着してもらい、体験してもらう
河川レンジャー	浸水地歩行体験と風水害に対する備え(簡易水槽を用いた浸水地の歩行体験を行い、水害のリスクや移動時のデメリットなどについて解説。その後枚方市の防災ガイドを交えながら、リスクの低い避難方法や備えについても解説する。)
大阪ガス ネットワーク	●マイコンメーターデモ機を使った復帰操作実演 ●ガス管モデルやパネル等を使った都市ガス安全取組みの紹介
NTTドコモ	●展示用パネル6枚(南海トラフ巨大地震の対策等、ドコモ災害対策の取組み説明) ●避難所支援物の展示(無料充電・無料Wi-Fiの展示) ●ドコモ防災対策PR用映像の再生(PCモニターで再生) ●防災ハンドブック等のノベルティ配布
JUAVAC大阪枚方校	ドローン展示・パネル展示・チラシ設置
コマツ	●小型建設機械を2台展示(PC01EとPC05E) ●災害復興支援パネルの掲示 ●モニタで支援活動の映像を放映
大阪府	●大阪府河川防災情報ホームページリニューアルに係る操作説明 ●防災パネル展示による啓発 ●防災クイズ参加者への備蓄物資の配布など



総合防災訓練参加団体(者)数

		小 計		総 計
市 役 所	本部員・危機管理施策推進員※1	57人	113人	参加者数： 約3,638人 参加団体数： 生涯学習市民セ ンター 2施設 21校区 要配慮者利用 施設 32施設 18
	派遣・交代職員	13人		
	職 員 ※2	43人		
※1 防災研修(50名)と防災訓練(7名)の参加者が一部重複 ※2 危機管理部21・都市整備部7・上下水道部11・健康福祉部4				
避 難 所 訓 練 (4 校 区)	磯島小学校	100人	461人	
	殿山第一小学校	32人		
	西牧野小学校	69人		
	船橋小学校	260人		
避 難 所 訓 練 (協定先並びに関 係機関)	参加団体 ※3	42人		
※3大阪府トラック協会6・大阪府建築士会3・JUAVAC2・ダスキンレントオール9・ AZ-COM丸和4・社会福祉協議会(ボランティア含む)13・総合福祉センター5				
広 域 避 難 訓 練 (2 校 区)	伊加賀小学校	20人	28人	
	枚方小学校	8人		
イ ベ ン ト	防災ブース	94人	約2,994人	
	来場者	約2,900人		
そ の 他	生涯学習市民センター	2施設		
	防災主訓練外校区	15校区		
	要配慮者利用施設	32施設		

取組内容 寝屋川市河川監視カメラシステムの構築

【取組概要】

市内河川 5 か所において、クラウドシステムによる河川監視カメラを設置し、水位の常時確認を可能とすることで、危険リスクや巡回数を低減するとともに、水位映像を市ホームページに 2 画面で映し出し情報発信することにより、市民に分かりやすい防災情報のサービス提供につなげる。

【事業費】

9,838千円（デジタル田園都市国家構想交付金（デジタル実装タイプ）を充当）

【システム運用画面（寝屋川市HPより）】

TOP最新画像過去画像一覧過去画像保存お知らせ設定IPアドレス設定

寝屋川市
防災情報ライブカメラ

① 寝屋川(分水施設)

② 寝屋川(寝屋川せせらぎ公園)

③ 古川(大久保神田橋)

④ 打上川治水緑地 全景

⑤ 打上川治水緑地 越流部

大阪府
河川防災カメラ

A 寝屋川(古川導水路)

B 讃良川(高橋)

C 寝屋川(寝屋川治水緑地)

D 古川(桑才)

※大阪府河川防災カメラ、国土交通省淀川ライブカメラ、川の防災情報ライブカメラは外部リンクページです

① 寝屋川市河川監視カメラシステム

最新画像過去画像一覧

局選択寝屋川(分水施設)

2025年04月17日 09時37分

平常時の様子



観測局寝屋川(分水施設)

監視状態監視中

所在地寝屋川市平池町

寝屋川の基準水位観測所の水位状況は、基準水位観測所の水位が、3.5mを超えてさらに水位が上昇するとき、桜木水門を開けて分水水門から寝屋川導水路(淀川)への放流を行います。

お問い合わせ先：寝屋川市 上下水道局 下水道事業室 ☎072-825-2162

4. 寝屋川市の天気と雨の情報

凡例 ○：監視中 ●：点検中 □：欠測中

- 33 -

取組内容

- 街歩きを行いコミュニティハザードマップの作成
- 風水害におけるコミュニティタイムラインの作成

年度当初に区長会において、地区防災計画の作成希望調査を行ったところ2地区が希望され、計画の作成に向けて街歩きを行い危険箇所や避難経路の確認を行った。そのうち 1地区は、街歩きの成果を基にコミュニティタイムラインを作成した。

今後、2地区とも地震のタイムラインも作成し、地区防災計画として災害発生時の地域としての活動を時系列にまとめるとともに、編成及び資機材等の整備も含めて検討を行った後、文書化を行い、大東市防災会議に上程し、承認をいただく予定。

特に、タイムライン作成時に、災害時の地域活動を行う上で、自治会活動の希薄化及び高齢化対策が課題としてあげられ、要配慮者の安否確認や避難をどのように支援するかについて熱心な討議が行われ、避難行動要支援者名簿の活用法や個別避難計画の作成推進についてのはずみにもなった。



取組内容 門真小学校の4年生を対象に、ARアプリを活用した防災授業を実施

門真市×大阪大学×大阪公立大学×大阪府 企画書（密集市街地内での防災授業）



■門真小学校でのARを活用した防災教育

- 目的：密集市街地内の小学校にて防災について楽しみながら学び、子どもたちの防災に対する理解、興味を持つきっかけづくりとなることと、さらに、子どもたちが学校で体験した内容を家庭内で共有してもらうことで、家庭内の防災意識の向上につなげる。
- 概要：大阪公立大学が開発したAR（拡張現実）アプリ「MUSUBOU-AR」を活用し、学校の敷地内に配置されている各ポイントをめぐり、スマートフォンの画面を通して災害（火災、水害、地震）を疑似体験してもらったり、クイズ形式で災害について学んでもらう授業を開催。ARを用いた疑似体験に限らず、学校内に整備されている防災備蓄倉庫の中身の確認などの実体験を組み合わせたカリキュラム
- 対象：門真小学校（小学4年生（約30名×2クラス））
- 実施予定：11/22（金）2・3限目。（1クラス45分×2）

【企画案】

- 各クラス45分体験×2クラス
- ・教室にて簡単なレクチャー後
 - ・10名3班体制に分けて各ポイントを回る
 - ・ポイントは自由に変更が可能（室内は対応不可）



【1 サイクル体験スケジュール（案）】

- | | |
|-------------------------|------------------------|
| ①家庭科室(1F)：プログラム概要説明 | = 5分（大学、府、市） |
| ②運動場各所：災害AR体験+災害クイズ×3箇所 | =15分（府、市） |
| ③リアル体験：防災資機材等の解説 | =10分（市） |
| ④クイズの解説（+過去の航空写真※） | ※時間が余れば実施 = 5分（大学、府、市） |

リアル体験 危機管理課でご対応いただけますと幸いです。
（防災倉庫・マンホールトイレなどの解説）



ARで災害体験（火災・水害・地震）

災害に関するクイズ（動画）



過去のまちを見てみよう！ ※体験時間が余れば実施
（自分が通う小学校の昔をみてみよう）



取組内容 門真小学校の4年生を対象に、ARアプリを活用した防災授業を実施



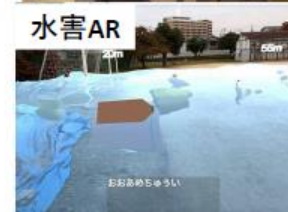
地震クイズ動画



水害クイズ動画



火災クイズ動画



取組内容 門真小学校の4年生を対象に、ARアプリを活用した防災授業を実施

ARアプリを用いた防災授業の様子

ダイジェスト動画があります(youtube)

<https://www.city.kadoma.osaka.jp/kurashi/anshin/4/6/32968.htm>

!



令和6年11月22日(金)に門真小学校の4年生を対象に、ARアプリを活用した防災授業を行いました。
当日は、大阪大学、大阪公立大学、大阪府の協力のもと、スマートフォンの画面を通して災害の疑似体験や、クイズ形式で災害について学んでももらいました。

取組内容 住民主体の避難所の開設等の連携イメージの共有

日時：12月1日（日）

場所：田原小学校

内容：市民と連携した避難所の開設訓練、マンホールトイレ、かまどベンチの設置・展示を行った。寝屋川流域協議会(下部写真)はじめ、一般事業者の協力を得て啓発ブースを設置し、来場者へその啓発を図った。



取組内容 防災力強化事業の一環として、トイレトラック1台、トイレカー2台を購入

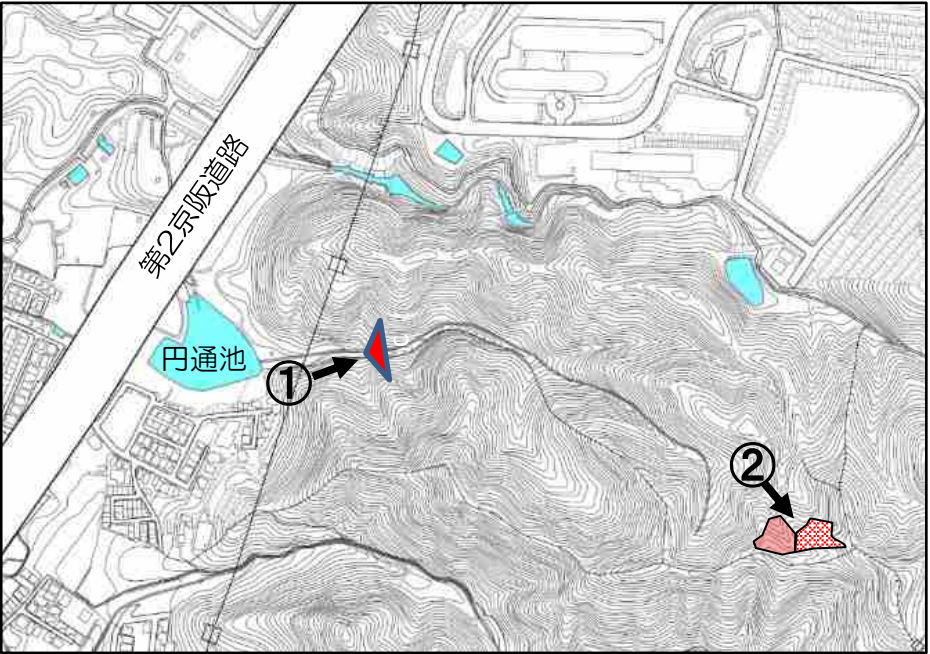
災害時の衛生環境の維持向上を目的とし、トイレトラックとトイレカーを導入しました。それぞれ他機関・他の自治体と協定を締結し、相互支援の仕組みを構築しています。導入にあたっては、緊急防災減災事業債の活用に加え、クラウドファンディングによる資金調達を実施しました。

トイレトラックトイレカー

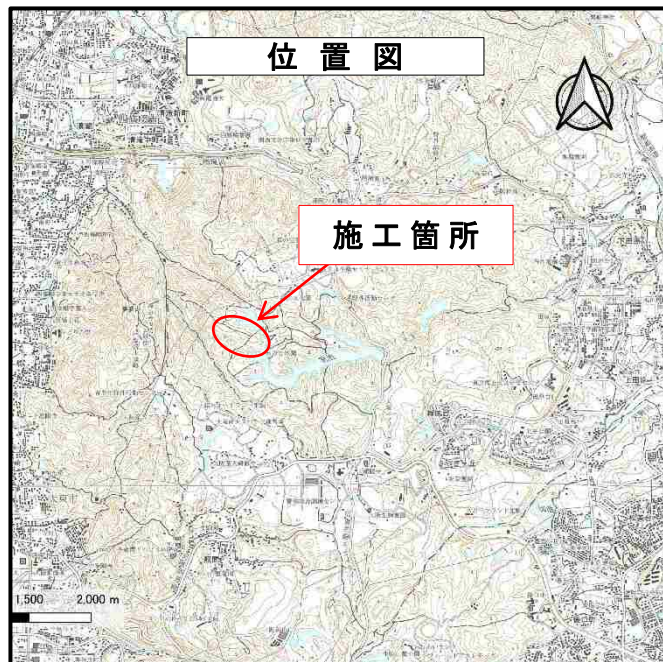
取組内容 ・治山事業、森林整備・保全を推進



（目的）枚方市津田地内において、溪床、溪岸の荒廃を防止するとともに、下流への土砂の流出を抑止調整するための治山施設（治山ダム工（谷止工 鋼製）1基）を整備した。併せて上流側の森林整備（風倒木処理）を実施した。



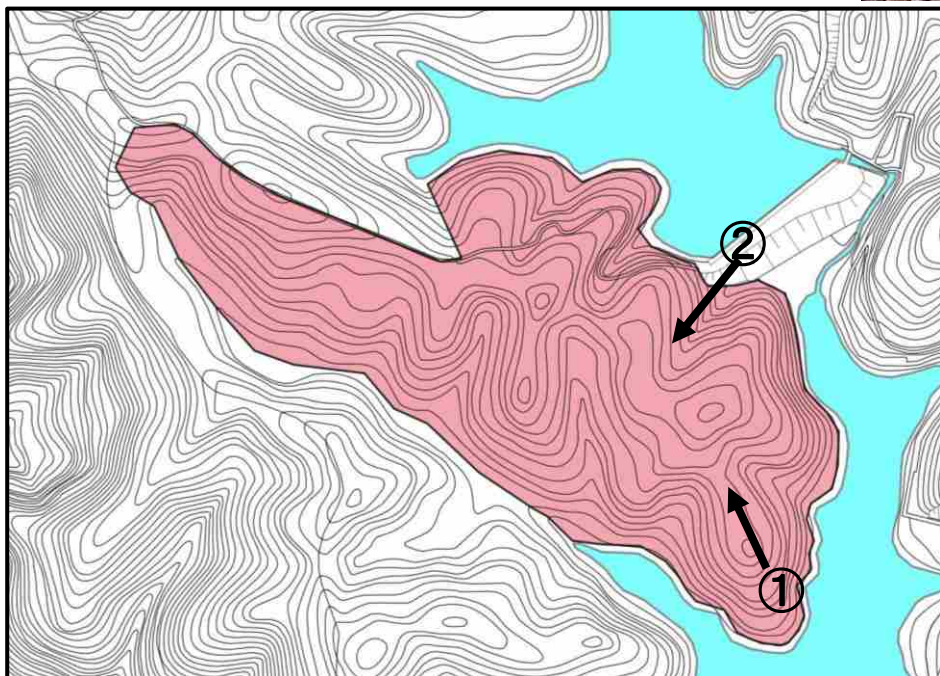
取組内容 ・森林整備・保全を推進



（目的）四條畷市南野地内において、河川への土砂、流木流出の抑止・山地保水力の向上のための森林整備（整理伐・筋工）を実施した。



①森林整備（整理伐） 施工前後



②森林整備（筋工） 施工前後

取組内容 生駒山麓地域の土砂災害を想定した市役所内タイムラインを作成

令和5年度に避難判断指標作成に向けたデータ整理を行った。その情報を基にタイムラインステージ移行のトリガーを設定、市役所内の防災に関連のある部署を中心にタイムラインを作成した。



令和5年度の取組イメージ

災害の経過

発災までにやるべきこと



避難所への職員配備の
調整・指示

土砂災害警戒情報発表までの
雨量は？ 時間は？

避難所開設指示の
タイミングは？

などなど・・・

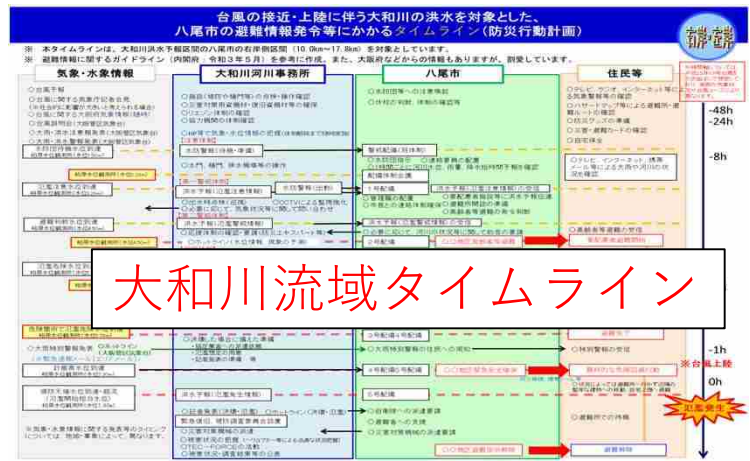
令和6年度完成したタイムライン表

危機管理室	平時	ステージ1	ステージ2	ステージ3	ステージ4	ステージ5	ステージ6
タイムラインステージ	平時	ステージ1	ステージ2	ステージ3	ステージ4	ステージ5	ステージ6
行動目標	防災意識を高める	準備	警戒	避難誘導発令に向けた準備	早期避難対応	避難対応	応急対応
意思決定		タイムライン立ち上げ	職員配置調整会議開催	職員配置調整会議開催 (避難判断指標判断)	「高齢者等避難」発令	「避難指示」発令	「緊急安全確保」発令
トリガー		①大雨注意報が発表され、かつ、気象台・ウェザーニューズ等の情報で総雨量が100mmを超える可能性があると判断された場合 ②台風説明会が開催された場合	大雨警報（浸水害）が発表され、かつ、気象台・ウェザーニューズ等の情報で総雨量が200mmを超えることが予想された場合	大雨警報（土砂災害）が発表され、かつ、今後さらに50mm以上の降雨があると予想される場合	避難所を開設した場合	①土砂災害警戒情報が発表された場合 ②土砂災害の危険度分布で「危険（黄）」となった場合	①土砂災害の発生を想定した場合 ②大雨特別警報（土砂災害）が発令された場合
目安時間		48時間～15時間	10時間	5時間	3時間	2時間	0時間
防災行動	1 地域防災計画の修正 2 防災保護計画の修正 3 防災保護会議の開催 4 BCP更新 5 避難所設置職員の選出を人事に依頼 6 災害時応急指針、事業者等との協定締結・事前調整 7 土砂災害3D都市モデル整備 8 防災倉庫整備 9 タイムライン作成 10 備蓄物資管理・更新 11 ハザードマップ作成 12 防災会議の開催 13 委員（防災委員）の委嘱	23 大雨警報発表後及びウェザーニューズへ気象予測情報の伝達 24 災害対策の総括（各専任課にかけた資料調整、作成） 25 避難所調整・事前調整会議の開催 26 防災情報共有・相互協力を進め、避難所調整（仮所）即座決定でメール連絡 27 事前調整の進捗・支援	28 避難→ 29 避難→ 30 避難→ 31 避難→ 32 避難→ 33 避難→ 34 避難→ 35 避難→	36 避難→ 37 避難→ 38 避難→ 39 避難→ 40 避難→ 41 避難→ 42 避難→ 43 避難→ 44 避難→	45 避難→ 46 避難→ 47 避難→ 48 避難→ 49 避難→ 50 避難→ 51 避難→ 52 避難→ 53 避難→	54 避難→ 55 避難→ 56 避難→ 57 避難→ 58 避難→ 59 避難→ 60 避難→ 61 避難→ 62 避難→	63 避難→ 64 避難→ 65 避難→ 66 避難→ 67 避難→ 68 避難→ 69 避難→ 70 避難→

東部大阪で山麓に市街地を有する自治体を対象に12年間の気象情報を整理した。避難所の開設に向けた準備にはおおむね3時間が必要となる。避難所開設のためのリードタイムを見込むには気象警報のみに拠るだけでは困難であり、大雨警報（土砂）発表から土砂災害警戒情報発表までの経過時間と累積雨量を整理し、避難判断の指標とするための検討を行った。

ハザードマップ検討委員会の委員を対象にグループワークを実施。大阪管区気象台、大阪府河川室、八尾土木事務所を迎え勉強会を行い、地域防災計画から自所属の役割を確認、さらに具体的な防災行動の洗い出し、防災行動を実施するタイミングを定めた。

取組内容 大規模水害タイムラインの行動項目を盛り込んだ各班マニュアルの作成



八尾市独自のタイムラインの作成（運用と検証）

八尾市大規模水害タイムライン

寝屋川流域における関係機関、国・大阪府・流域関係市が協力し、平成30年度に作成した「寝屋川流域大規模水害タイムライン」をベースに、令和4年度に大和川の氾濫や東部山麓地域の土砂災害を取り込んだ「八尾市大規模水害タイムライン」を作成（更新）している。

また、本タイムラインの行動項目を盛り込んだ「八尾市各班マニュアル」に基づき、毎年、タイムライン発動に伴う実働訓練（運用と検証）を継続的に実施している。

※寝屋川流域タイムラインふりかえり（アンケート調査）等

八尾市各班マニュアル※

台風や突発的な豪雨（線状降水帯）等に対応するため、令和4年度に、「八尾市大規模水害タイムライン」の行動項目を盛り込んだ「八尾市各班マニュアル」を作成している。

本マニュアルでは、各班が取るべき具体的な行動内容を時系列に取りまとめており、その中で高齢者等避難（レベル3）や避難指示（レベル4）等、市全体の各段階での具体的な災害対応について見える化を図り、迅速で効率的な災害対応に繋げている。

※八尾市各班マニュアル…地震や風水害における具体的な災害対応等を示すものとして、八尾市地域防災計画に位置付けられた防災体制として、各班ごとに災害対応マニュアルを作成している。

取組内容

避難所運営に関する演習、個別避難計画策定を見据えた要配慮者の避難訓練
キッチンカーによる食事配給訓練

○実施概要

【日 時】 令和6年12月8日（日）9：30～12：00

【場 所】 玉手中学校体育館

【参加者】 区長、自主防災組織、その他住民 約350名

【災害リスク】 大和川、石川による洪水

【主な訓練の流れ】

- ①防災無線を活用し、地域住民に訓練開始を周知。福祉部局と連携し、事前に把握していた要配慮者の避難誘導を地域主導で実施。
- ②柏原市薬剤師会による避難所における急病者への処置、感染対策に関する講演実施。避難所運営における衛生面の課題を確認。
- ③キッチンカーによる食事配給訓練により、地域住民と民間企業の連携による地域防災力の向上を図った。



避難所運営訓練

※要配慮者が参加しやすい形式で実施



柏原市薬剤師会による講演会



キッチンカーによる食事配給訓練

取組内容 大防災訓練 ・ こども防災放送



泉大津史上初！

大 防災訓練

11.4 Mon

3つの訓練で、備えを“総点検”。

情報が「届かない」をなくす。

情報伝達訓練



自宅 / 市民

防災無線や防災アプリ、電話、FAXなど、市民一人ひとりが防災情報の受け取り方を確認。

協力して避難所をつくる。

避難所開設訓練



小中学校 / 職員・市民

市で初めて8か所を“同時”開設。避難所担当職員と住民が避難所の開設手順を確認。

4割の人員で挑む。

初動対応訓練



市役所 / 職員

“職員も被災者”であることを念頭に、限られた人数で初動対応の手順を確認。



防災イベント

水循環式シャワー

能登半島体験談

消防デモンストレーション

防災グッズ抽選会



参加団体 25

来場者 800

良かったこと

- ✓ 全部局、初動で必要な動きを認識できた。
- ✓ 地域団体等との繋がりを強化できた。
- ✓ 課題を洗い出すことができた。

住民から通報。



“ 防災無線が鳴らなかった ”

東日本大地震を知らない子どもたちが届ける、
“いのちを守る声”。

こども防災放送

※ 実証実験として実施。

3/11
(火)
12:30-
こども
防災放送

東日本大震災から14年。

未来を担うこどもたちが

“いのちを守る声”を

届けます。



小学生が無線から備えを呼びかけ。



地域住民が放送に耳を傾ける。



市内67か所に設置した
防災無線放送の屋外スピーカーを使って
こどもたちが防災情報を放送する。
「こども防災放送プロジェクト
『ハッピースマイル』」を行います。



このプロジェクトは、
未来を担うこどもたちが地域の安全を守
るために、自らの力で防災力を向上させ
る取り組みです。

※ 当日は、事前にレコーディングした内容を放送します。

故障の
早期発見

市民の
意識向上

取組内容 R5年度より4カ年の計画で市内全中学校区にて地域避難計画および地域タイムラインを作成

【地域避難計画】

各町会・自治会の代表者様と年3回～4回のワークショップを開催し、近年の災害の特性や防災情報等を学んでいただき、町会・自治会が災害に備えるために必要な知識を得る機会を設けます。また、地域の特性を把握するため、まち歩きを行いそれぞれの中学校区オリジナルの地図を作成します。

【地域タイムラインについて】

台風等の影響による大雨によって引き起こされる「洪水」や「土砂災害」の場合、気象情報からあらかじめ台風最接近(雨が強く降るとき)の時間を予測することができます。

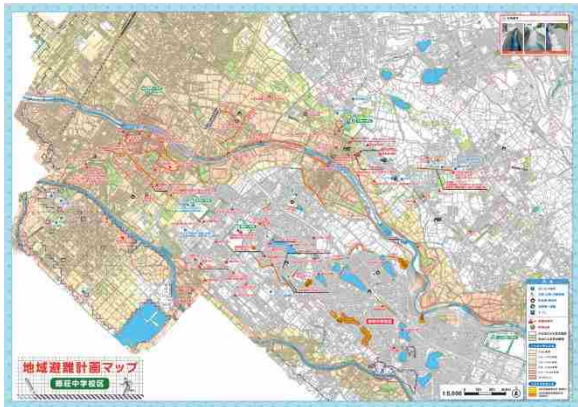
しかし、いざという時に、いつ、誰が、何をするのかを分かっているなければ、全く意味がありません。そこで、「個人」と「コミュニティ」が災害発生数日前から、災害発生まで、何をしなければいけないのか？を分かりやすくするために時系列に表します。「いつ」「誰が」「何をするのか」を時系列に整理したものが「地域タイムライン」です。

令和6年度 作成数

【地域避難計画・地域タイムライン】

2中学校区 計34町会・自治会

配布数：約9,000世帯



地域避難計画



地域タイムライン

取組内容

(取組の概要を記載)

○コミュニティタイムライン作成にむけたサポート

- ・自主防災組織を対象に、年2～3回程度開催する「防災まちづくり勉強会」において、コミュニティタイムラインの重要性を周知し、その後、地区防災計画を作成する組織に対して、コミュニティタイムラインの作成も依頼している。（R5末：1件
R6：2件）
- ・地区防災計画作成済の組織に対しても、積極的に作成の働きかけを行う。

○個別避難計画の作成

- ・福祉部局とWGを複数回開催し、浸水想定で被害の大きいとされている、沿岸部（高師浜、千代田、羽衣）の地区より作成を進めている。
- ・社会福祉協議会へ作成を委託し、介護支援専門員（ケアマネジャー）の協力のもと順次作成中。
（290件依頼：作成42件、不要57件、施設入所等136件、確認中55件）

取組内容 風水害タイムライン訓練・忠岡町総合防災マップの説明（災害リスク、避難情報、避難行動やマイタイムラインなど）

忠岡町風水害タイムラインに基づき、令和6年8月に2日間かけ、実動訓練及び図上訓練を実施した。また、自主防災組織（2地区）に対し、防災講座を実施し、忠岡町で想定される災害リスク等について説明し、自助、共助の重要性を再確認していただいた。更に、ハザードマップの見方や町が発令する避難情報について説明し、避難行動フローを理解してもらい、マイ・タイムライン作成の重要性についても説明を行った。



岬町タイムライン防災の取り組みについて



岬町
まちづくり戦略室 危機管理担当

- ・ 岬町の概要
- ・ 町タイムラインについて
- ・ 岬町タイムライン防災プロジェクト

はじめに

面積：49.18km²
世帯：7,389世帯
人口：14,181人
男性：6,638人
女性：7,543人
高齢化率：40.7%

令和7年3月31日現在



- 58 -

2025/1/29

[illegible]

参加機関：

大阪府岸和田土木事務所

地域支援・防災グループ

泉南警察署

自主防災組織（住民）

消防団

民生委員・児童委員

岬町危機管理担当

工程：全3回

第1回 学習会

第2回 まち歩き

第3回 グループワーク

自主防災組織

淡輪16区

世帯数 227

人口

自主防災組織

加入率 100%

淡輪13区

世帯数 20

人口

自主防災組織

加入率 100%

過去の災害から得た教訓として・・・

自然に人間は敵わない！ 災害は必ずやってくる
被害が起こる前に逃げる

平時からの心構えと準備

早めの避難行動

岬町タイムライン防災プロジェクト



タイムラインとは

大規模災害はいずれ発生することを前提に、住民の命を守り、被害を最小限化することを目的として、防災関係機関が連携して、災害時に発生する状況を予め想定し、共有した上で、「いつ」「誰が」「何をするか」に着目して、防災行動とその実施主体を時系列に整理した計画

コミュニティタイムラインとは

自治区や小学校校区など小さな区域を対象とし、住民や自主防災組織などの避難行動を記載し、市町村と地域と一緒に作成する地域版タイムライン。多機関の参画により、それぞれの視点から防災について考え、意見を出し合い、時系列に整理した計画



作成手順

ステップ①：対象地区の選定

- ・地域の選定
洪水・高潮浸水想定区域内や、土砂災害警戒区域等に含まれる地域
- ・地域代表への確認
学習会やグループワークの開催場所
完成までのフローを作成（学習会・まち歩き・グループワーク）

ステップ②：学習会の開催（地域の危機事象の共有）

- ・学習会での対応
事前準備「会場の確保」、「地域への案内」、「資料の作成」
役割分担「受付」「案内」「司会・進行」「事務連絡等」

ステップ③：まち歩きの実施

- ・まち歩きでの対応
事前準備「地域への案内」、「筆記具等の準備」「地図の作成（A2, A1程度が好ましい）」
当日内容「備品の配布（文具、メモ用紙等）」「まち歩きの補助・助言」「災害リスク等の補足」

ステップ④：グループワークの開催

- ・グループワークでの対応
事前準備「会場の確保」、「地域への案内」、「資料の作成」
役割分担「受付」「案内」「司会・進行」「事務連絡等」

ステップ⑤：とりまとめ、自主防災組織等への提供

- ・とりまとめ作業
最終工程終了後は、とりまとめを行い（素案）を作成し、参加機関等にも意見照会を行い、完成版を作成する。
完成版作成後は、作成地域に提供し、適宜更新・修正を行っていただく。

・「タイムライン防災」とは

事前に予測できる台風や前線などを要因とする風水害に対し、住民の命を守ることを目的として、地域の防災関係機関が「いつ（どのタイミング）」「何を（どのような行動）」「誰が（各機関の行動）」の3つの要素を協議し、防災行動として整理したものです。

行動時間 (いつ)		行動項目 (何を)		連携・調整機関 (誰が)
● 時間前に		行動内容	行動基準	組織・団体名
■ 平時から ■ 上陸72時間前 ■ 上陸後（進路確定後）		■ 平時段階に定める項目 ■ 上陸までの行動項目 ■ 上陸後の避難行動		■ 自主防災組織 ■ 民生委員・児童委員 ■ 消防団 ■ その他関係団体

淡輪16区および、13区コミュニティタイムライン（土砂災害）

日頃からのコミュニケーションが大切！！

時間経過	気象情報・河川の水位情報等（注1）	市町村の避難情報 警戒レベル	地域住民		地域の動き			
			避難できる人	避難支援が必要な人	情報伝達	安否確認	避難誘導	その他
	台風進路情報 早期注意情報（警戒級の可能性等の情報） 台風に関する情報（随時）				テレビ、ラジオ、インターネットで台風情報を確認 近頃からの声かけ、注意喚起 自治体（16区）で連絡体制の確立	名簿等を作成し、要配慮者の名前、住所、連絡方法を確認	自治区内の危険箇所及び、浸水・脱水道路の巡回点検	危険箇所を事前に巡回などで周知する。
	大雨注意報、洪水注意報、強風注意報、豪雨注意報 大雨注意報、洪水注意報、強風注意報を警戒に切り替える可能性について	避難注意情報（避難注意水位到達）	警戒レベル2【注意】 自主避難所開設準備		自治体で情報収集、共有して、区長、民生委員に提供する。 避難所開設の準備をする。	名簿等を作成し、要配慮者の名前、住所、連絡方法を確認	9月、避難を想定して、準備する。避難経路の安全確認。	自主的な避難者の受け入れ 応援・避難者名簿の作成
	暴風警報 大雨警報、洪水警報	避難警戒情報（避難判断水位到達）	警戒レベル3【警戒】 避難所開設準備 高齢者等避難	自主避難開始 避難開始 家族や地域が連携した避難開始	TEL・訪問し、避難所を開設した旨、高齢者等に伝達避難を促す。 区長から市長に避難所を開設した旨を連絡する。市長から全住民に連絡する。 避難所開設を役場に連絡する。	避難対象者を事前に把握する。要配慮者の安否確認及び、避難意思の確認（TEL・訪問） 避難者名簿を作成する。	要配慮者の避難の介助を行う。 避難経路の現状確認 車いす・車庫の準備をする。	避難者の受け入れ 担当人員の配置 各種名簿の作成 連絡網等々の確認
	土砂災害警戒情報 記録的短時間大雨情報 豪雨警報、豪雨特別警報	避難危険情報（避難危険水位到達）	警戒レベル4【非常に危険】 避難指示	近所に声を掛けながら避難 避難完了	避難所内にて、避難者及び、在宅避難者を自治体役員での情報共有を行う。 避難状況役場に報告する。	避難者名簿を作成する。負傷及び、持病等も記入する。 ※救助の必要がある場合は、消防署に連絡する。 孤立家庭など早期救助先を役場へ連絡	避難経路の安全確認をする。	要配慮者名簿に基づいた声掛け及び、受け入れ 避難者名簿の作成 担当人員の配置 備品の配布 各種名簿の作成 連絡網等々の確認
	大雨特別警報 豪雨災害発生情報	災害発生情報	警戒レベル5【極めて危険】 緊急安全確保	逃げ遅れた人は、自宅内の災害の受けにくい場所へ避難し、安全確認する。 避難完了	在宅避難者を把握する。 在宅避難者には、外出しないように連絡をする。	在宅住民で孤立している場合には、その旨を役場に連絡する。上記の者が救助を要する場合には、直ちに消防へ連絡する。		備品の確認及び、準備 防災行政無線の確認

（注1）気象情報、河川の水位情報等は、地域の事情によってタイミングが変わります

連絡先 岬町：072-492-2001

岬町消防署	072-492-0119
泉州警察署	072-471-1234
与田病院	072-495-0801
関西電力送配電（停電時）	0800-777-3081
災害用伝言ダイヤル	伝言の録音は ①
①の①	伝言の再生は ②

避難に関する参考情報

河川防災情報	
https://www.mhlh.go.jp/safety/safety/river/safety/river.html	
洪水リスク表示図	
https://www.mhlh.go.jp/safety/safety/river/safety/river.html	
土砂キネクル	
https://www.mhlh.go.jp/safety/safety/river/safety/river.html	